

2024 年度数理学習センタープロジェクト発表会を開催

7月26日(月)に学生会館 SAKURAUM6階スカイホール Aにて、2024年度(前期)名桜大学数理学習センタープロジェクト発表会を開催しました。

数理学習センター(Mathematical Science Learning Center: 通称 MSLC)は、授業と連携した学習支援を計画的・継続的に行っています。MSLC の活動は、学生チューターが主体となって活動の計画(Plan)・実践(Do)・評価(Check)・改善(Action)を行い、学期末には発表会を開催し、参加者に評価をしてもらいます。それぞれの担当業務の報告書を作成・提出し学期の活動は終了となります。それが「MSLC プロジェクト」です。それは、本学のリベラルアーツ機構の「特色ある教育の推進」の一貫であり、問題発見・問題解決能力を鍛えて国際社会で活躍できる人材となるよう、チューターの社会人基礎力の向上にも繋がる活動となっています。また、リベラルアーツ機構の年度計画には、「学生ピアによる学生支援・学修支援を推進しつつ、センター利用者を対象とした支援効果を検証する。」ことが求められています。MSLC プロジェクト発表会は、学習支援の成果報告会としての取組でもあります。

今回の発表は、①MSLC 活動報告、②MSLC の利用状況、③チュータリングに特化したチュータートレーニング(プレゼンテーションとTR ロールプレイ)、④連携授業の実践と成果及び課題、⑤新規チューター育成の報告、⑥四期間を終えての所感を述べるという内容でした。

教職員 8 名、学生 2 名計 10 名の参加がありました。

ご多忙の中、発表会にご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、チューターへの激励や指導助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

次に発表の概要を紹介します。(チューターの発表のスライドより一部抜粋)

①MSLC 活動報告

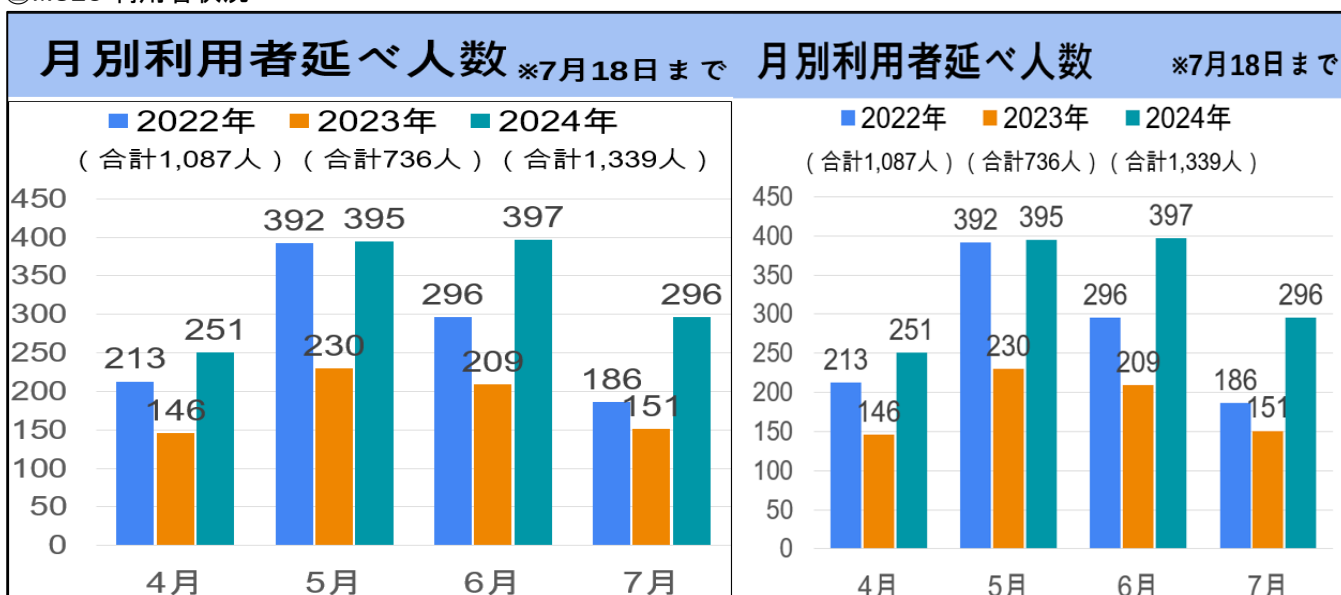


〇3月の事前研修会と勉強会を終えて、新学期スタート！最初の1週目からチュータリングが始まり、定例の木曜日6限目のトレーニングを開始しました。

半期間の流れ



②MSLC 利用者状況



○過去3年間のMSLC利用状況は、実人数・延べ人数ともに今期が最も多かった。

(1) 新規チューター育成の目的・目標

目的
MSLCにおける学習支援のノウハウを継続チューターより学ぶこと

目標
TR力向上や連携科目の理解度向上によるTR経験を積む

(4) 継続チューターによるTR評価

〈方法〉
⇒シフト内の継続チューターが期間内(4週間)に新規チューターのTRを観察し、期間終了後に評価を行う

期間内に新規チューターのTRを観察気になるところは各自メモをする

期間終了後、Googleformにて評価を記入
評価内容はフィードバックする

○先輩チューターによる新規チューター育成は、チューターの成長が感じられ頼もしかったです。
これが、学生が学生へ継承・発展させていく学びのコミュニティーづくりの成果の一つです。

④ 四期間を終えての所感

1. プレゼンテーションの経験

2022年後期

コミュニケーション

新垣 赤嶺紀美

なぜコミュニケーション能力が必要？

生きる中で、性善との関わりが重要
内閣にコミュニケーションを行うが必要となる。

コミュニケーションとは？

言語 communis (コミュニシ)
意味 【ラテン語】公共の・全体で共有される

社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達 (広辞林より)

コミュニケーション力の種類

言語 コミュニケーション < 話す力 > 聞く力
非言語 コミュニケーション < 伝える力 > 読み取る力

2023年前期

～ディスカッション～

赤嶺紀美 塩谷玲空

ディスカッションの定義

1. 「チームにとっての最適な結論」を決めるもの。
2. ディスカッション (discussion) の中には対話 (dialogue) という意味が組み込まれている。

ディスカッションは「意見を建設的に聞く」という態度を持つ一方で、自分には固定観念や偏見があることを意識しながら全員でより良い解を導こうと配慮することが大切である。

グループディスカッションに必要な役割とは？

①ファシリテーター (司会)
②書記
③タイムキーパー
④発表者

実際に話し合いを行ってみよう (6分)

テーマ 「TRでチューターを育てる言葉を考えてみよう」

- グループの役割分担 (12分)
- 各グループの役割 (12分)
- 個人で考える時間 (12分)
- グループでの話し合い (12分)
- 各グループの発表のしし (12分)
- 発表者 (12分)

2023年後期

主体性

赤嶺紀美

主体性が発揮されるチーム

マクロマネジメント 心理的安全性がある

- 部下の主体性の尊重
- モチベーション・意欲力・自己効力感・信頼感の向上
- 心理的安全性がある
 - 威圧的仲間がいない
 - リーダーシップや責任感を発揮している仲間がいる環境
 - 周囲の人に頼める信頼感

4. 粘り強さ (自己調整学習)

自信

- できていない部分は認める、失敗してもいいと思える環境をつくる
- 小さな成功体験を積み重ねる自己効力感
- 失敗の原因を分析する
- 「どうできないか」という状況から「何ができないのか」、「なぜできないのか」という原因の探求が必要
- 比較対象となる自分の強みであることを伝える
- さらなる強みを磨いて自分なりに考えて取り組むようになる

2024年前期

チュータリング (TR) について

赤嶺紀美

チュータリングの種類

1対1 (個人単位) 3対3 (グループ単位) 3以上 (複数単位)

チュータリングスキル

MSLCにおける5つのチュータリングスキル

- 伝える力
- 信頼関係
- 説明力・洞察力
- 観察力・対応力
- 数値能力

チュータリングスキルを高める方法

- 伝える力 → 考えを整理、尊重・共感・積極応答に
- 信頼関係 → 寄り添い、対等な姿勢、ディスプレイキング
- 説明・洞察力 → 深く部分を理解、時間配分、繰り返り
- 観察力・対応力 → 質問要領
- 数値能力 → 問題への理解、下位目標を知っておく

1. トレーニング (プレゼンテーション) 2. 他者との関わり

3E

Educate (教育する) Entertain (楽しませる) Explain (説明する)

何かを学び取る プレゼンを楽しくめる どの部分も分かりやすい

2023年前期(5/24)第6回定期トレーニング「プレゼンテーション」中村

2023年後期(12/14)第11回定期トレーニング「リーダーシップ」新垣・佐々

3. タイムマネジメントスキル

『限られた時間を適切に配分・管理し、業務における生産性を最大化するための能力』

Assessment (評価) Arrangement (配分) Adaptation (適応)

2024年前期(5/30)第7回定期トレーニング「タイムマネジメントと学習方法」藤津・外間

チューターの成長を社会人基礎力からみる

社会人基礎力 (大学前)

- 社会人基礎力 (大学前)
 - 「前に踏み出す力」: 「考え抜く力」・「チームで働く力」の3つの能力 (2024年5月) から構成されており「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、前半を専攻200周年に実施した。
 - 「前に踏み出す力」: 「考え抜く力」・「チームで働く力」
 - 「考え抜く力」
 - 「チームで働く力」
 - 「伝える力」
- 自己を磨く: 能力を磨き、自らキープを繰り返すことでいく上での要
- 目標、学び、統合

2024年前期(6/13)第9回定期トレーニング「スタディバイ・スタディグループ」塩谷

- 先輩、後輩、教職員の方々との関わり
- チューターとの関わり
- 名桜大学ステークホルダー委員会への参加



[所感] 毎学期プレゼンテーションを行うことで、スライド作成や発表の仕方が向上し、MSLCに入る前よりも自信をつけることができました。プレゼンテーションの準備中は自分が伝えたいことを言葉や形にして伝えることの難しさを感じて悩むこともありましたが、その分、思考力や判断力を高めたり、やり抜く力がつきました。

他のチューターのプレゼンテーションを通して多くのことを学びました。例えば、プレゼンテーションで意識すべきこと、リーダーとして余裕を持って他者と接すること、時間管理術など、大学生、さらには社会人になっても必要となるスキルを知ることができました。特にタイムマネジメントに関しては、私がMSLCに入って身につけられたスキルの一つです。MSLCでは、時間内にチュータリングをするスキルや、先生や他の業務に影響が出ないように期限内に終わらせる必要性があったり、シフトの時間に限りがある、ということもあり、タイムマネジメントスキルが必要になってきます。タイムマネジメントスキルを身につけることで、自己管理ができたという達成感を得ることができました。また、チューター以外の活動や勉学にも良い影響を与えてくれました。

○今期でチューターを終了する赤嶺さんの四期間を終えての感想は、みんなに大きな感動を与えました。特に、後輩チューターにとってのロールモデルとなり、これからもみんなの励みになることでしょう。お疲れ様でした。ありがとうございました。

文責 数理学習センター長 高安美智子